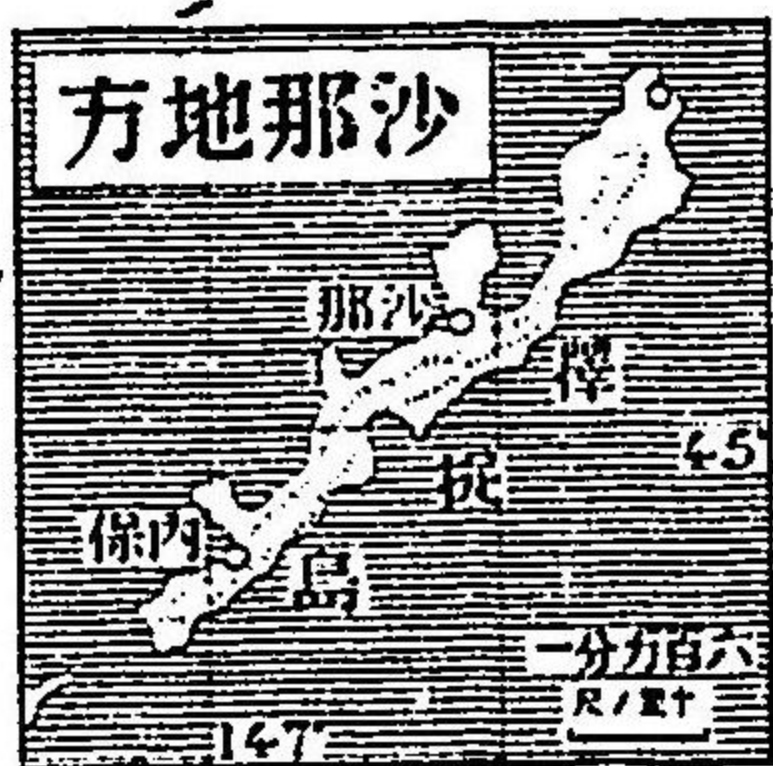
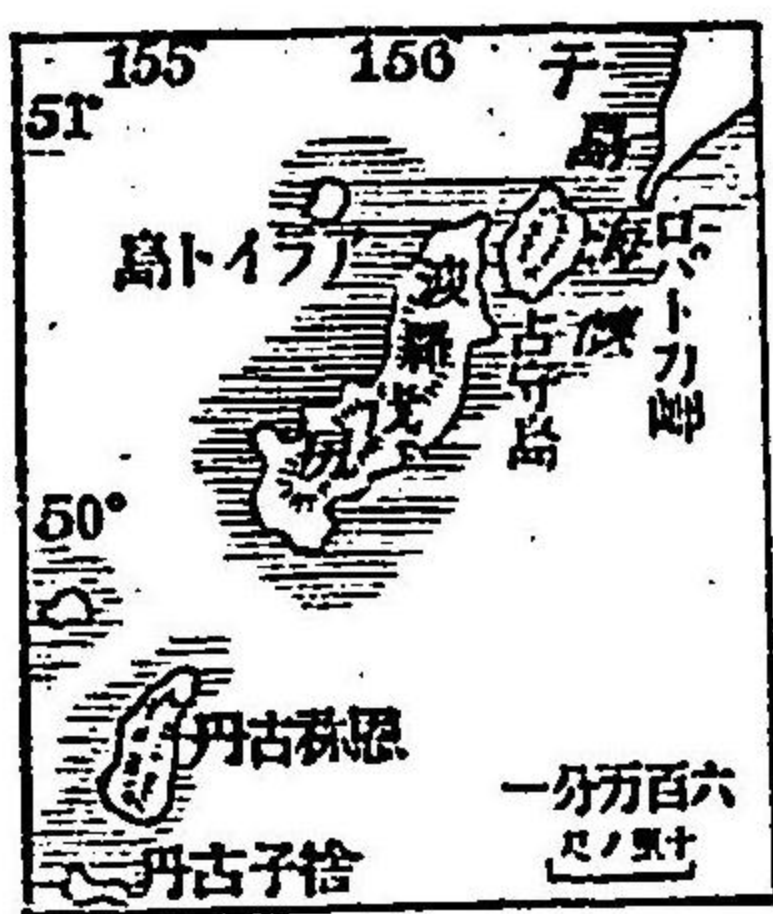


沙那支廳は擇捉島を管す



氣候寒冷にして、樹木少く、海豹多し。列島中、國後は最も本地に近く、擇捉は最大にして、沙那港に沙那支廳あり。擇捉の東北、得撫あり、其の北なるホッスル海峽を以て千島を口千島と奥千島とに分つ。奥千島の阿頼度は帝國の極北、占守は極東にして、ロシア領カムサッカに相對す。



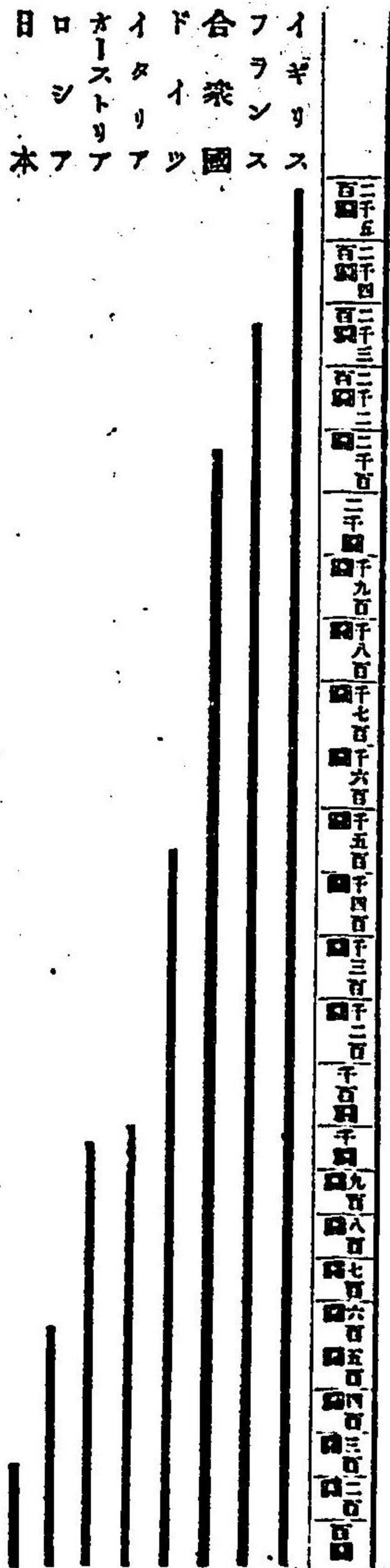
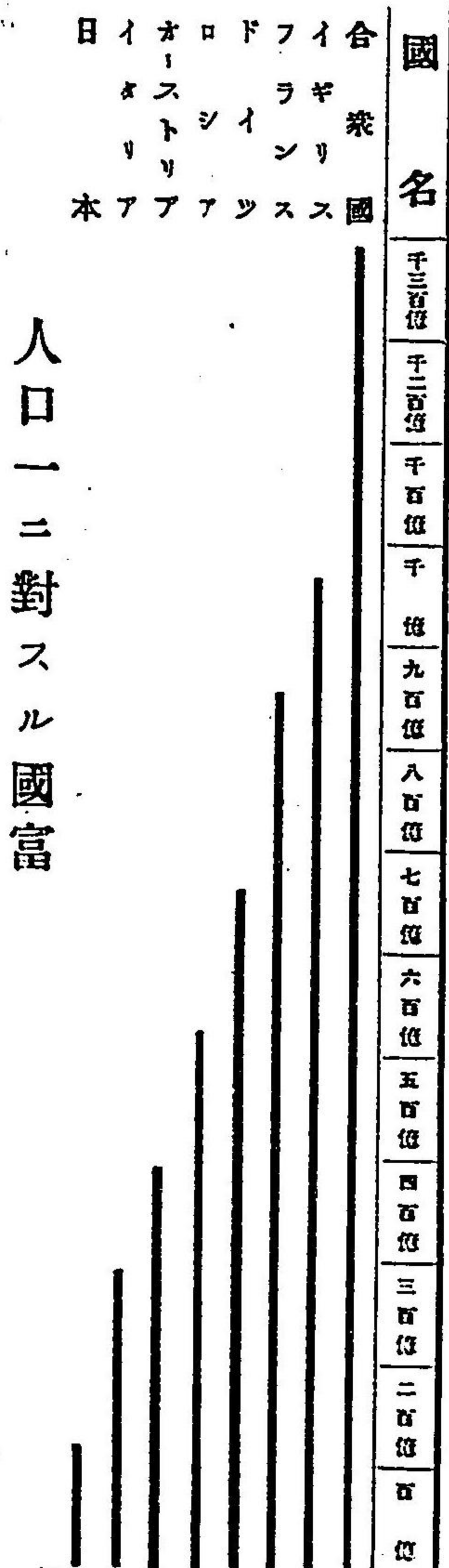
第六章 日本帝國地誌結論

我が日本帝國は、以上説く所の如く、其の大部分は世界の最も溫和なる氣候に居り、兩端は亞寒帶と熱帶とに入るを以て、寒、温、熱三帶の動物、植物を産し、物産の種類多きこと世界に稀なり。鑛物も亦乏しからず、即ち製造工業に必要な石炭の産出多し。又國土の地勢急峻なれば、河水も亦急峻にして、電氣の發動及び工業に利用し得べく、以て大に製造工業を興起するに足るべし。加之ならず、動植物の種類は多く、風景も優美に、春花秋葉も亦多様なれば、國民の美術心を喚び起し、美術工藝に巧みならしむ。又海國なるを以て、水産に富み、海味に飢ゑたる四億の支那人は、近く海を隔て

、群居すれば、其の需用益増加すべし。又海岸線の長さことも世界第一に居り、航運及び貿易に最も便利なり。國の位置より見れば、今後人力を以て開發するの最も餘地多きアジア大陸に接し、更に將來世界の運命を支配する大平洋を控え、最も有爲多望の位置にあり、即ちアジア大陸にはシベリア大鐵道成り、大平洋の東には世界の富を致せるアメリカあり、ニカラガ運河亦漸く竣功せんとし、依て以て大西洋及びヨーロッパと連絡し得べく、又大平洋の南にはオーストラリア大に發達して、南洋無數の諸島の遺利も亦開發されんとし、大平洋電線も敷設せらる。我國は此の如き新銳なる氣運の交叉點にあるを以て、國民たるもの、發憤して此の氣運に投ぜざるべけんや。

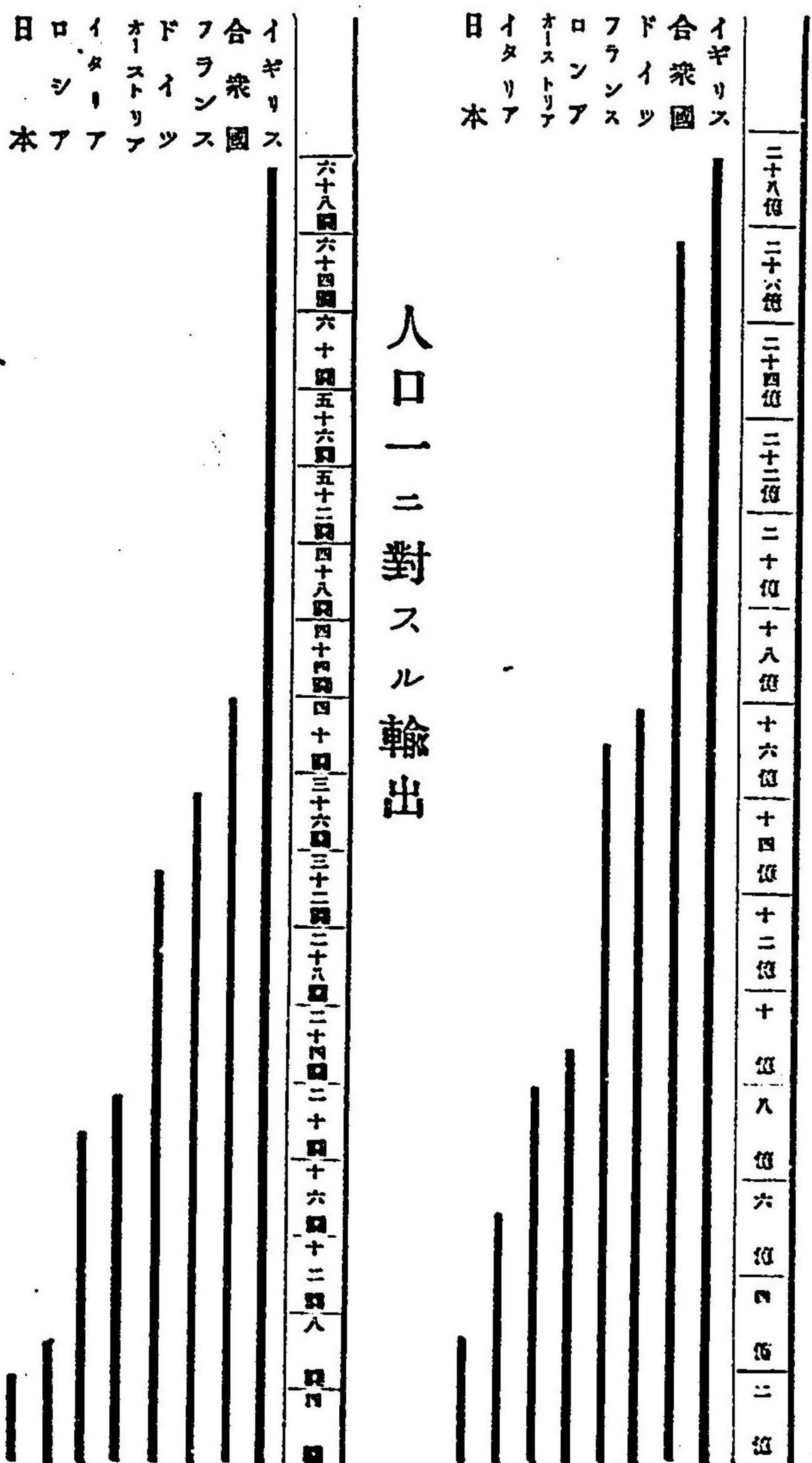
以上の如く我國は有爲多望の間に有と雖も、國勢の如何を顧みれば、世界列國と比較して實に其の最下位にあり、即ち

國 富



獨り國富及び人口一に對する國富の割合の最下位にあるのみならず、國民の生産力も亦最下位にあり、即ち

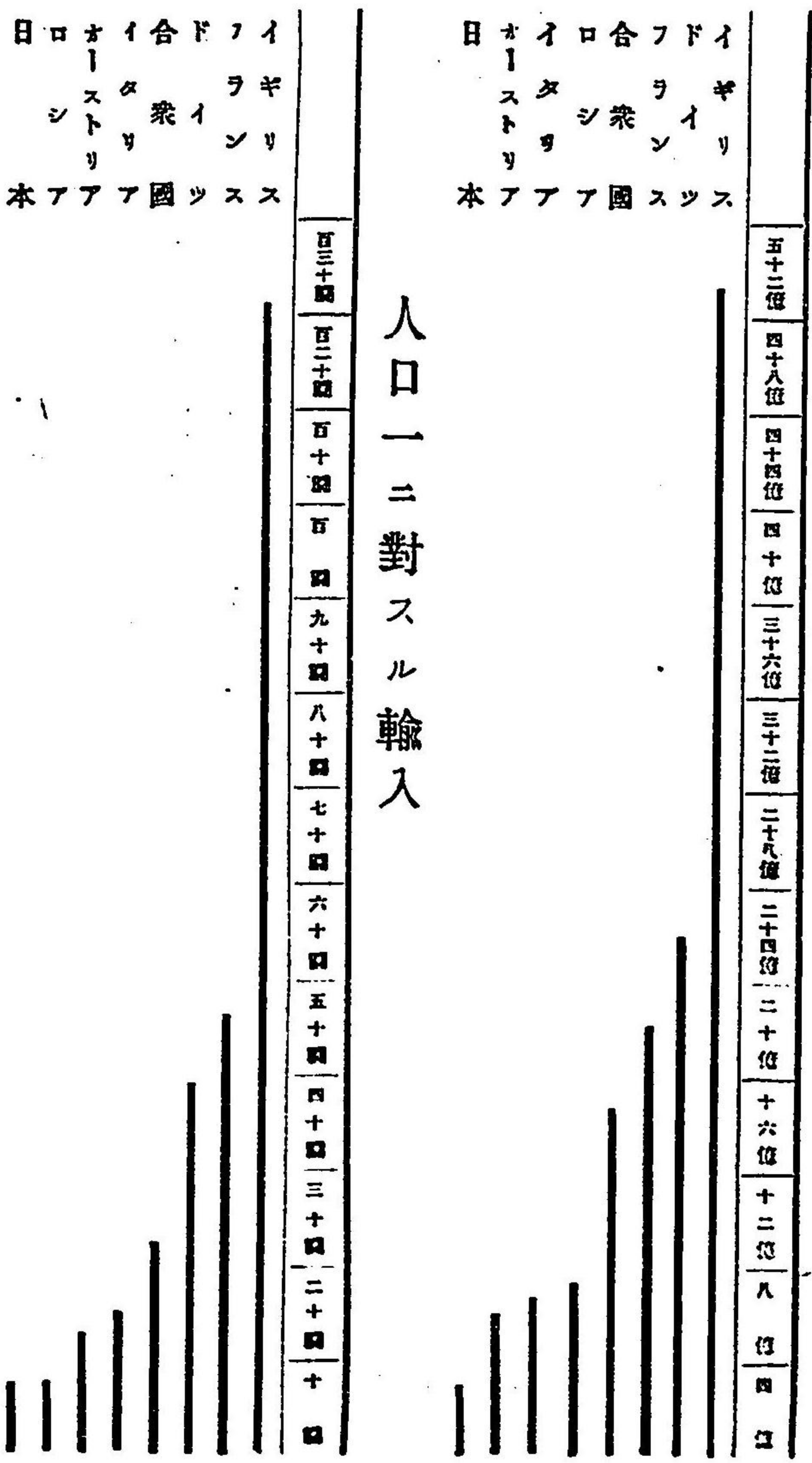
輸出



人口一ニ對スル輸出

輸出既に以上の如く最下位にあり、顧みて輸入如何と見れば亦た最下位にあるなり、即ち

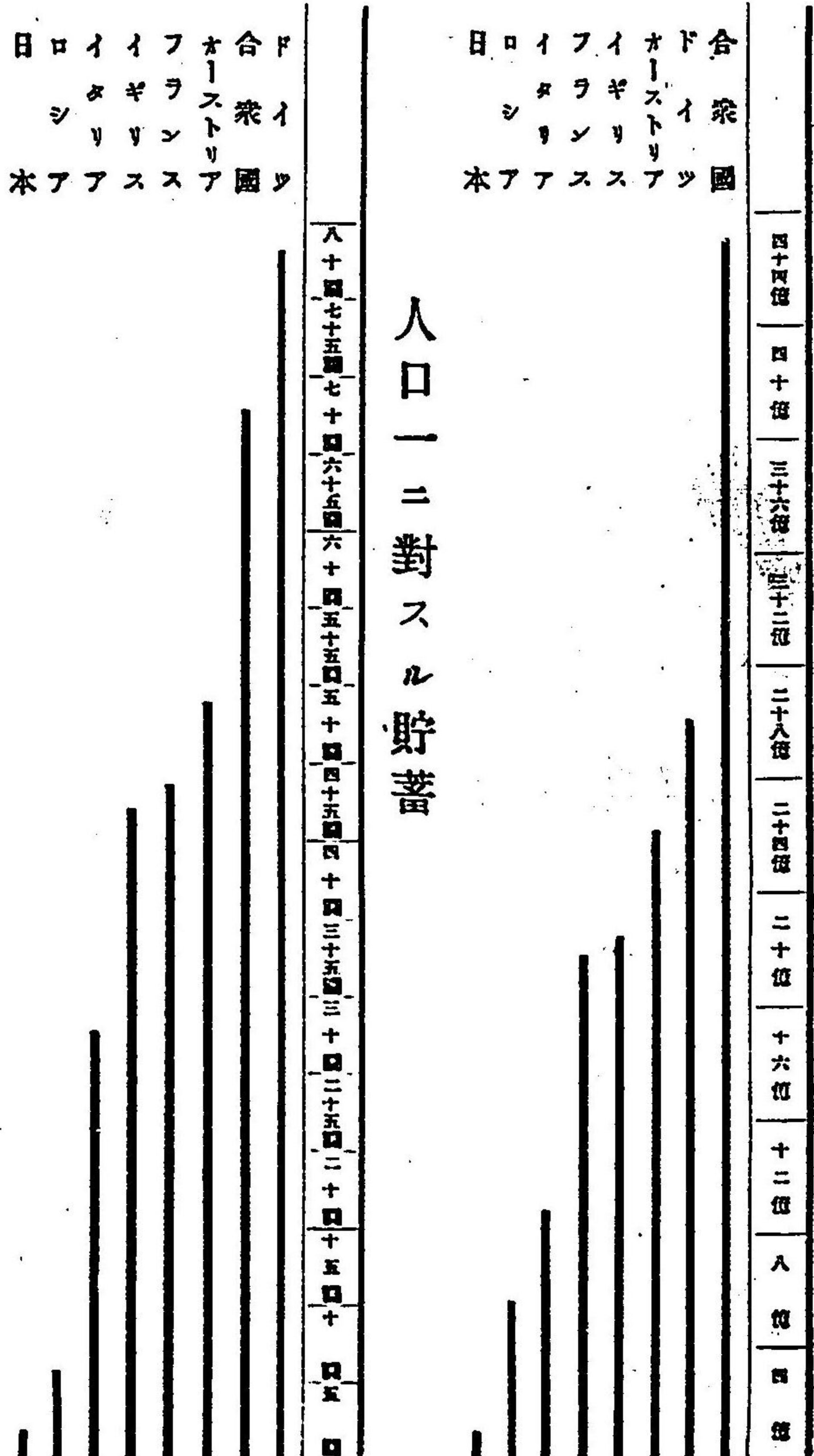
輸入



人口一ニ對スル輸入

貯蓄

人口一ニ對スル貯蓄



國民たるもの、世界の恩惠盡く我國に集まり、而かも國勢の最下位にあるを顧みれば、豈に奮ふ所なかるべけんや。

26/8/36

明治三十六年四月七日印刷
 明治三十六年四月十日發行

中學地理日本の部奥附

定價金六十五錢

著作者 志賀重昂

發行者 東京市神田區裏神保町九番地 合資會社 富山房

代表者 坂本嘉治馬

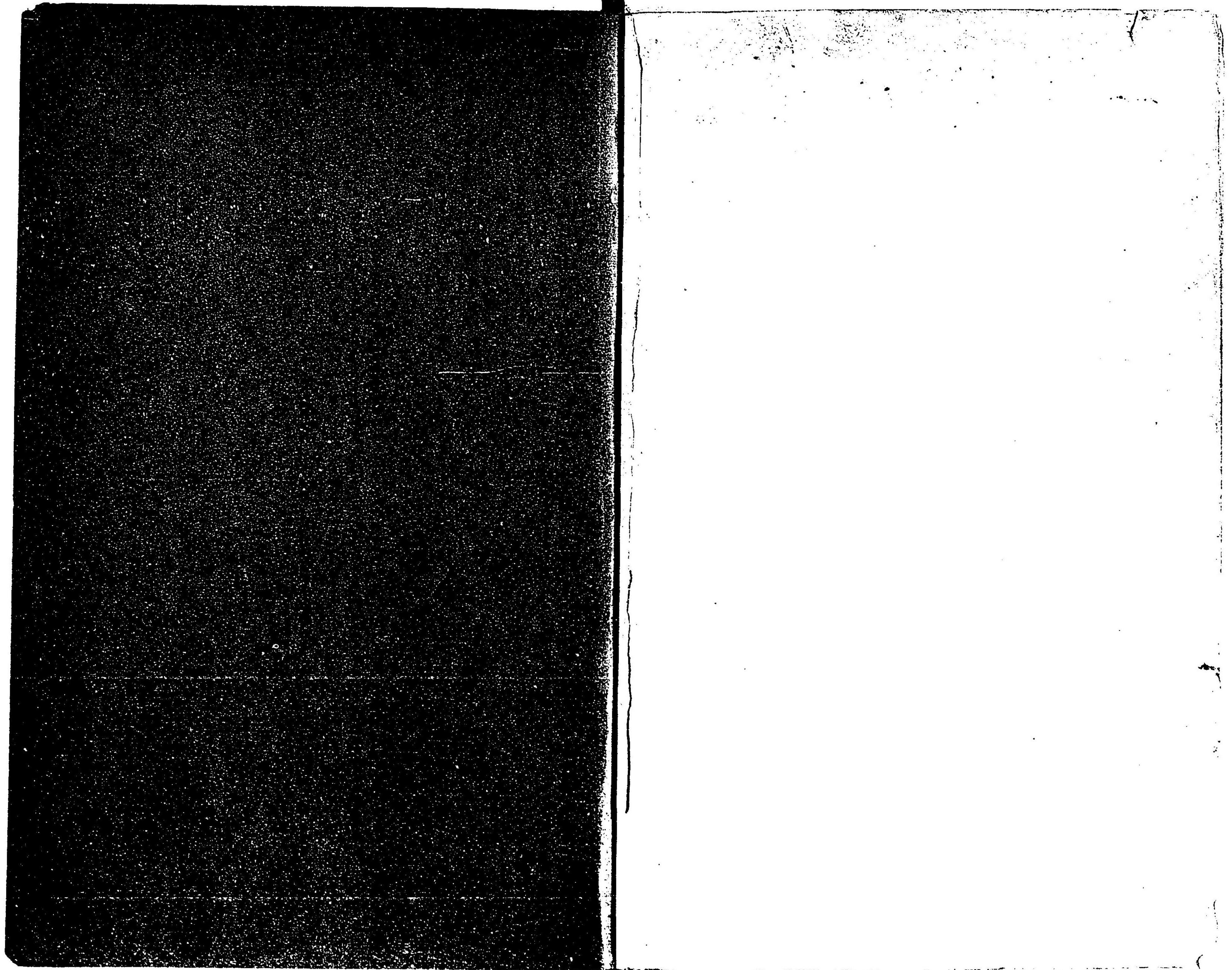
印刷者 東京市神田區三河町一丁目十四番地 石井要藏

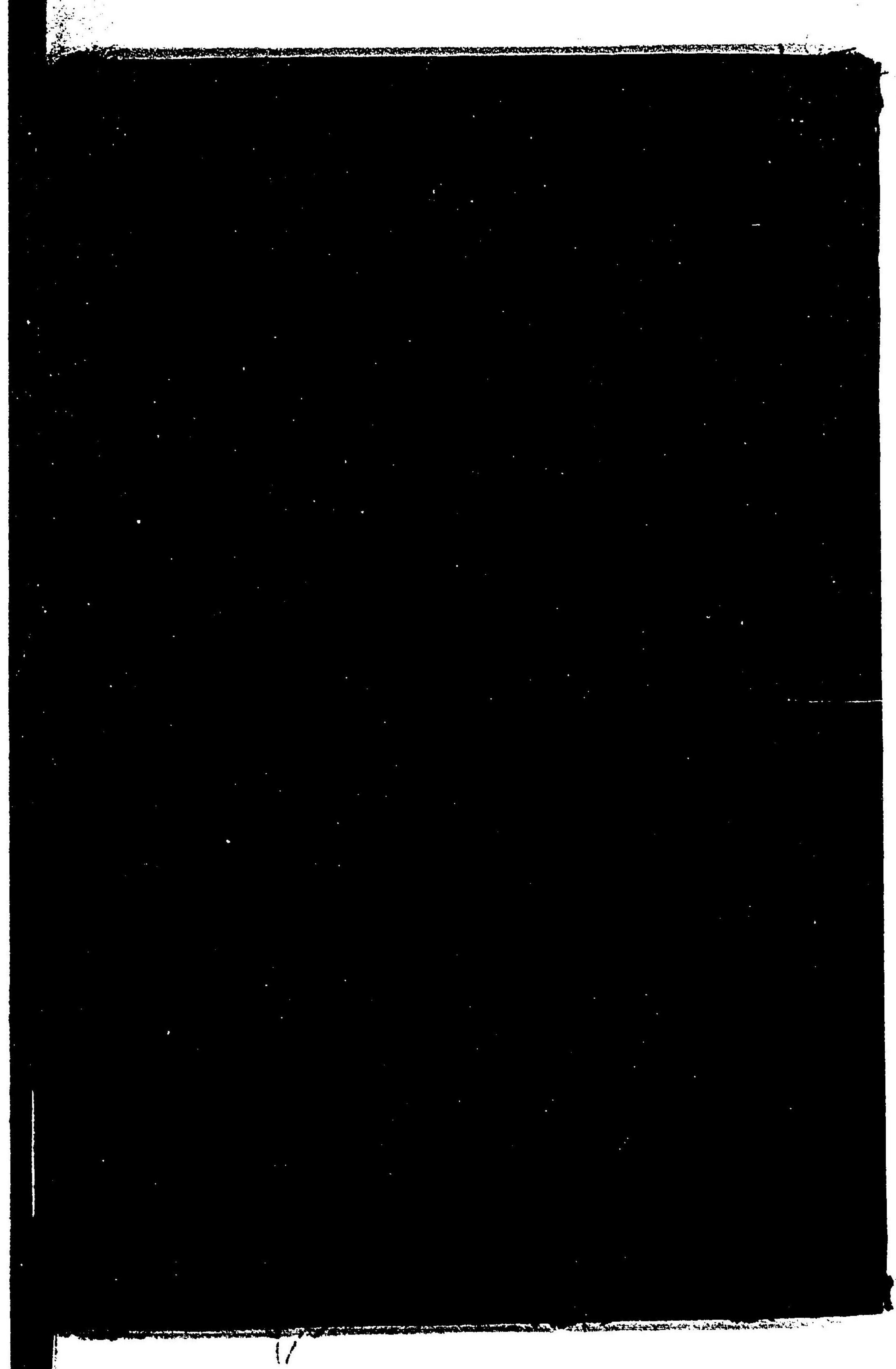
印刷所 東京市神田區三河町一丁目十四番地 合資會社 丸利商會

發兌元 合資會社 富山房

(二十九年六月設立)

(電話本局 二〇三六番) 電報號 ヤマフ





022957-000-7

74-245

中学地理 (日本之部)

志賀 重昂/著

M36

ADB-0892



